

| 1-1 建物概要 |                      | 1-2 外観 |            |
|----------|----------------------|--------|------------|
| 建物名称     | 東名厚木病院4号館            | 階数     | 地上5階       |
| 建設地      | 神奈川県厚木市船子232番地       | 構造     | RC造        |
| 用途地域     | 市街化調整区域              | 平均居住人員 | 400人       |
| 気候区分     | 6地域                  | 年間使用時間 | 8,760時間/年  |
| 建物用途     | 病院                   | 評価の段階  | 実施設計段階評価   |
| 竣工年      | 2016年10月 予定          | 評価の実施日 | 2015年6月30日 |
| 敷地面積     | 3,297 m <sup>2</sup> | 作成者    | 鹿島建設(株)    |
| 建築面積     | 2,099 m <sup>2</sup> | 確認日    | 2015年6月30日 |
| 延床面積     | 6,672 m <sup>2</sup> | 確認者    | 鹿島建設(株)    |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: A: 3.0 B+: 1.5 BEE=1.0 B-: 0.5 C: 0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 2  
LR1 エネルギー: 1  
LR2 資源・マテリアル: 1  
LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Q1 室内環境 (スコア= 3.5)

|       |     |
|-------|-----|
| 音環境   | 2.9 |
| 温熱環境  | 3.1 |
| 光・視環境 | 3.9 |
| 空気質環境 | 4.0 |

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

|     |     |
|-----|-----|
| 機能性 | 3.5 |
| 耐用性 | 3.9 |
| 対応性 | 3.4 |

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

|      |     |
|------|-----|
| 生物環境 | 3.0 |
| まちなみ | 4.0 |
| 地域性  | 3.0 |

#### LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (スコア= 3.6)

|       |     |
|-------|-----|
| 建物の外皮 | 4.5 |
| 自然エネ  | 4.0 |
| 設備システ | 3.3 |
| 効率的   | 3.5 |

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

|       |     |
|-------|-----|
| 水資源   | 3.4 |
| 非再生材料 | 3.8 |
| 汚染物質  | 3.3 |

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

|       |     |
|-------|-----|
| 地球温暖化 | 3.1 |
| 地域環境  | 3.1 |
| 周辺環境  | 3.1 |

| 3 設計上の配慮事項   |   |
|--------------|---|
| 総合           | 地域に根差す総合病院として、利用者に優しい設えや物理環境を整備するとともに、周辺環境に配慮した計画としている。   |
| その他          | 0   |
| Q1 室内環境      | 病室においては、大きな開口部により昼光率を高めるとともに、バルコニーによる庇効果で直射光を遮る計画としている。吹抜け部に面するガラス面にはLow-Eガラスと電動ブラインドを採用し、温熱環境の負荷削減を図っている。                  |
| Q2 サービス性能    | 天井高さを最大限確保し、圧迫感のない室内環境としている。病院機能の特性を把握し、傷や汚れのつきにくい仕上げ材の選定や、車いす患者に配慮したユニバーサルデザインに取り組んでいる。                                    |
| Q3 室外環境(敷地内) | 50%以上の外構緑化を実施するとともに、ソメイヨシノやイロハモミジを敷地周縁部に植栽し、季節ごとに地域住民が親しみを持てる植栽計画に配慮している。建築設備の排熱の位置に配慮し、7割程度の室外機を4階以上(GL+15.44m)の屋上に設置している。 |
| LR1 エネルギー    | 空調負荷を低減できる外装計画とし、昼光利用・自然換気を促進する。  |
| LR2 資源・マテリアル | 再生材料の利用を促進するとともに、汚染物質含有材料の使用を極力排除している。  |
| LR3 敷地外環境    | 騒音や振動に配慮した設備機器の配置、高さとしている。設備機器はルーバーにより目隠しをし、景観にも配慮している。北側の田畑への日影の影響の少ない建物高さとしている。   |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される